


プロ顔負けの地下芝居

横仙歌舞伎



指定区分	県指定重要無形民俗文化財
読みかた	よこぜんかぶき
所在地	奈義町滝本
指定年月日	昭和41年4月27日
解説	奈義山麓一帯の横仙地方では、明治時代以降盛んに農村の娯楽として地下芝居が演じられてきた。旧出雲往来沿いにあり、上方文化の影響を受け、数多くの芸題が上演された。地元の振付師の指導のもと、囃子・義太夫・役者も地元の保存会で担当し、芸を磨くとともに、後継者の育成にも積極的に取り組んでいる。
アクセス方法	【奈義町文化センター】JR津山駅から行方・馬桑行きバス「奈義町役場」下車徒歩3分 / 【松神神社】JR津山駅から車40分
公開状況	春は松神神社、11月下旬は奈義町文化センターで公演 / 問:奈義町文化センター 0868-36-3034
設備	
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要無形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	横仙歌舞伎
よみかた	よこぜんかぶき
しょざいち (所在地)	奈義町滝本
していたひ (指定した日)	昭和41年4月27日
せつめい	江戸時代(えどじだい)に農村(のうそん)の娯楽(ごらく)として、いろんなところで農村歌舞伎(のうそんかぶき)や地下芝居(じげしばい)が盛(さか)んに行われました。なかでも奈義(なぎ)の横仙地方(よこぜんちほう)は盛んで、今でも地元(じもと)の人たちによって公演(こうえん)されながら大切に伝えられています。役者(やくしゃ)や楽器(がっき)演奏者(えんそうしゃ)などすべて地元の人たちで行っています。